

## 第2回寝屋川市みんなのまち基本条例検証委員会における検証内容（前文）

※ 逐条解説：『みんなのまち基本条例の解説』

No.	箇所	意見	対応	
			方法	主な論点
1	第1段落	寝屋川市の条例であるから、淀川と寝屋川を入れ替えてはどうか。	現状のままとする	文章上の流れ（主語が「寝屋川市」であり、直後に「寝屋川」が続くことを避けている）や川の大きさ、本流・支流の関係等を踏まえたものと考えられるため、現状のままとします。
2	第3段落	逐条解説3ページに「少子高齢化の進行に伴い・・・人口減少の局面に入っています」とあるが、社会動態の影響も大きいことから、記述を追記してはどうか。	逐条解説で対応する	本市の人口減少局面に入った時期は、社会動態の減による影響が大きく、また、近年は自然動態の減による影響が大きくなっていることを踏まえ、社会動態及び自然動態の状況について逐条解説に追記することとします。
3	第3段落	検証報告書の意見1「様々な課題」の記述については、今後も課題は増えていくことを踏まえ、行政の検証結果どおり現状のままで良いのではないか。	現状のままとする	今後も様々な課題が生じることに鑑み、現状のままとします。

No.	箇所	意見	対応	
			方法	主な論点
4	第3段落	<p>「また、地方分権の流れの中で」の記述について、</p> <p>①「様々な課題に直面しており、地方分権の流れの中で」と変更し、様々な課題を地域で協働して解決するという趣旨を明確にしてはどうか。</p> <p>②地方分権については、国視点の言葉であり、市の姿勢として「受け身」にも見える。「多様化、複雑化する地域課題に対して」や「地域共生社会の実現のために」など、課題や目的・目標を記載するように変更してはどうか。</p> <p>③市民に分かりやすく具体的な内容を記述してはどうか。</p>	引き続き検討する	<p>委員会での以下の議論を踏まえ、引き続き検討することとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該文言は、後段に「地域が協働して自ら課題を解決する必要があります」とあり、地方分権が今後進む中で、地域の協働がより必要となっていくことを表現したものではないか。</li> <li>・「住みたい・住み続けたいまちづくり」など目標を記載しても良いのではないか。</li> <li>・「地方分権が進んでいる中で」などとすれば良いのではないか。</li> <li>・「地方分権」が何を指して進めてきたのか、ということ記述してはどうか。</li> </ul>
5	第3段落	<p>「地域が協働して自ら課題を解決する必要があります。」とあるが、「・・・地域が協働して課題を解決することで実現していきます」など期待や希望を表す表現に変更してはどうか。</p>	現状のままとする	<p>第3段落が「条例制定の背景」を記載していることを踏まえ、現状のままとします。</p>
6	第3段落 第4段落	<p>前文における行政・議会の立ち位置を明確にするため、「地域」に「行政・議会」を加えてはどうか。</p>	現状のままとする	<p>前文の主語は「私たち」を基本とするなど、あえて抽象度を高めた表現としていること、及び市民検討委員会での議論を踏まえ、現状のままとします。</p>

No.	箇所	意見	対応	
			方法	主な論点
7	第4段落	「「協創」しなければなりません」について、耳で聞いても分かるように、「共に創り上げていく」など分かりやすい表現としてはどうか。	引き続き検討する	<p>委員会での以下の議論を踏まえ、引き続き検討することとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先人たちが条例を検討する中で、創り上げてきた言葉としての「重み」はある。</li> <li>・既存の枠組みでは解決できない問題が出てきていることを踏まえ、「協創」の文言は良いと思う。ただし、分かりづらいという意見を考慮し、括弧書きで説明を入れるなどとしてはどうか。</li> </ul>
8	第4段落	「みんなが誇れる住みよいまちを「協創」する」と、後段の「次の世代へ引き継いでいく」は、二本柱と捉えるのか。そうであれば、後段にも「承継」などのキーとなる文言が必要である。他方、「協創」したものを引き継いでいくという趣旨であれば、2つの文章を「そして」でつなぐべきである。	引き続き検討する	<p>委員会での以下の議論を踏まえ、引き続き検討することとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・逐条解説3ページに「協創のまちづくりを進め、その上で、次代へ引き継いでいく」趣旨が記述されており、後者であると考え。</li> <li>・「そして」でつなぐことが法令用語として適切かどうか、検討する必要がある。</li> </ul>
9	第4段落	逐条解説にあるように前文が決意を述べるものであるならば、その語尾を「しなければなりません」ではなく、より希求的な「目指します」などの表現が適切ではないか。	現状のままとする	第4段落では、目指すべきまちづくりの前提となる「協創」の必要性を記述しており、条例制定の決意は第6段落（最終段落）において記述していることから、現状のままとします。
10	第4段落 第5段落	第4段落「豊かな文化風土を大切に守り育て」や、第5段落「恒久平和」などの記述に関し、市の対応や行動が伴っていないなければならない。	現状のままとする	条例に記載する理念や目標の実現に向けて、市民、議会及び行政は協働して着実に取組を推進していかなければなりません。なお、条文の記述としては、現状のままとします。

No.	箇所	意見	対応	
			方法	主な論点
11	第5段落	「持続的な発展が可能な社会」について、「持続可能な社会」と変更してはどうか。	変更する	SDGsの考えが広く認知され、「持続可能な社会」という文言が一般的に使用されていることを踏まえ、変更することとします。
12	第5段落	「広く世界に築かれることを望み」とあることから、逐条解説3ページにおいて、その趣旨を追記してはどうか。	逐条解説で対応する	条例の記述の趣旨を踏まえ、逐条解説において追記することとします。
13	第5段落	第4段落の「地域の力を結集して」のように、理念条項にふさわしい表現として「地域のつながり」を「地域の絆」としてはどうか。	現状のままとする	第六次総合計画において、地域の「きずなづくり」という表現を用いており、文言の統一を図ることにつながります。一方で、本文は「地域」同士のつながりを指している文章であることから、条文の記述としては、現状のままとします。
14	第5段落	本段落で3つのまちの姿が挙げられているが、例えば「環境に配慮し、安全で安心して誰もが暮らしやすいまち」について、読点前の文章は、読点後の文章を修飾しているのか。	現状のままとする	市民憲章や各都市宣言を参考に、本市の将来像を記載したものであること等を踏まえ、現状のままとします。

No.	箇所	意見	対応	
			方法	主な論点
15	第6段落	<p>「市民福祉の向上を目指し、」の文章について、</p> <p>①地方自治法の規定を踏まえ、「向上」ではなく「増進」としてはどうか。</p> <p>②市民に分かりやすい文言とするため、「市民自治の発展を目指し、」や「市民の幸せの向上を目指し、」などと変更してはどうか。</p> <p>③当該文章は削除しても良いのではないか。</p>	引き続き検討する	<p>委員会での以下の議論を踏まえ、引き続き検討することとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉」を「幸福」などと記載すれば分かりやすい。あるいは、どのようなまちを目指すかなど、端的な目標を記載しても良いのではないか。</li> <li>・法律上「福祉」は一般的に使われている。この前文上で使うべきかどうかは議論が必要である。</li> <li>・「市民福祉」とは、特定の利益ではなく、公共性に根差した社会全体の幸福・利益のことであると留意が必要である。</li> </ul>
16	第6段落	<p>検証報告書の意見2「多様性を認め合い」を追記することについて、賛同する。</p>	変更する	<p>今後、多様性を尊重する社会の実現の重要性はより高くなることを見込まれること等を踏まえ、「多様性を認め合い」という文章を追記することとします。</p>